

日本
刑法
謀故
殺約
説

三浦
翁輔
高須
欽太郎

036140-000-5

特53-398

日本刑法謀故殺約説

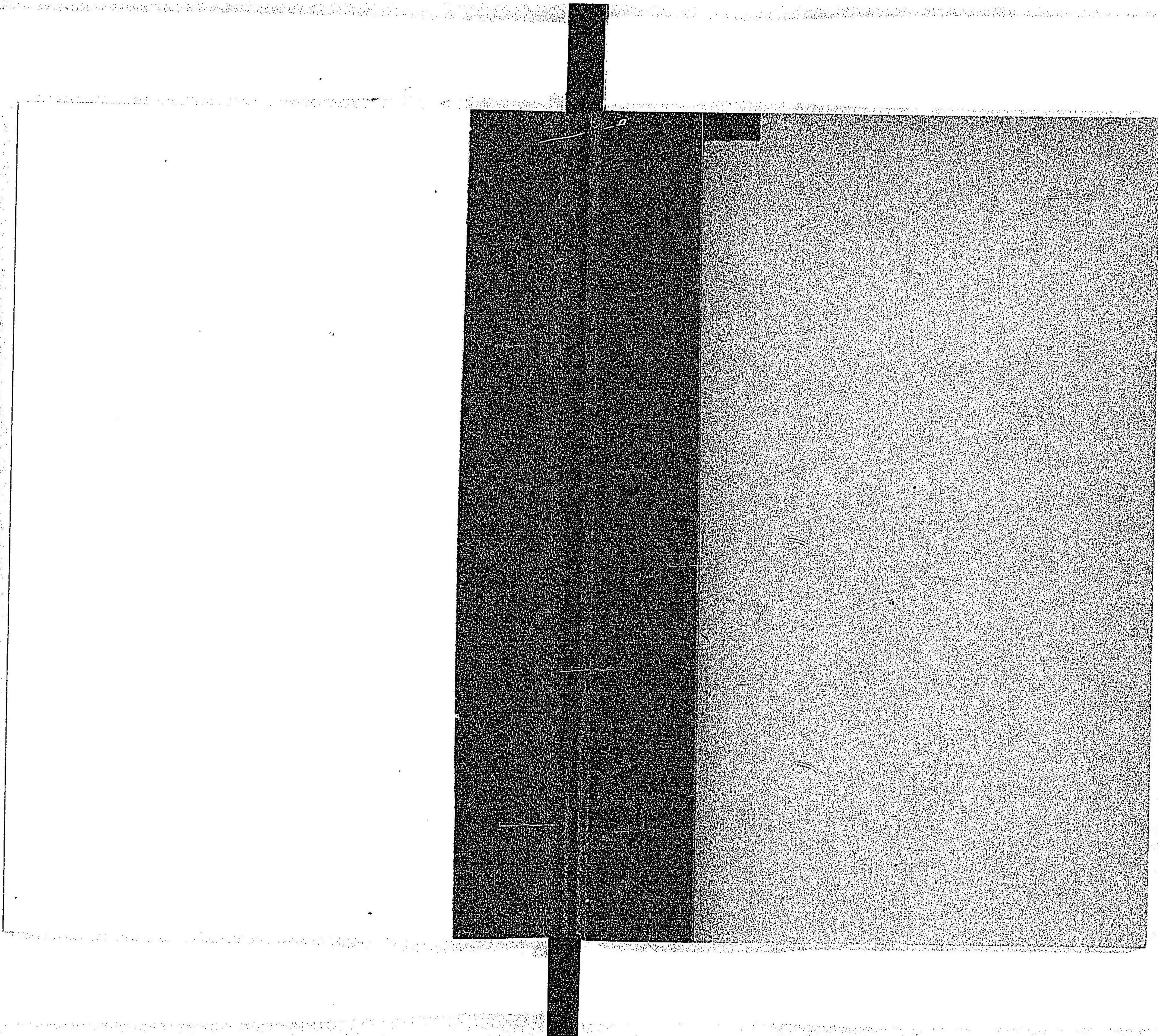
三浦 翁輔

高須 欽太郎 / 著

M17

BBP-0805





V-58

136
2
000

檢事補三浦翁輔
合著
警 靜 岡 縣 高須欽太郎

日 本
刑 法
謀 故 殺 約 說
完

靜 岡 松 山 發 行



特 53
398

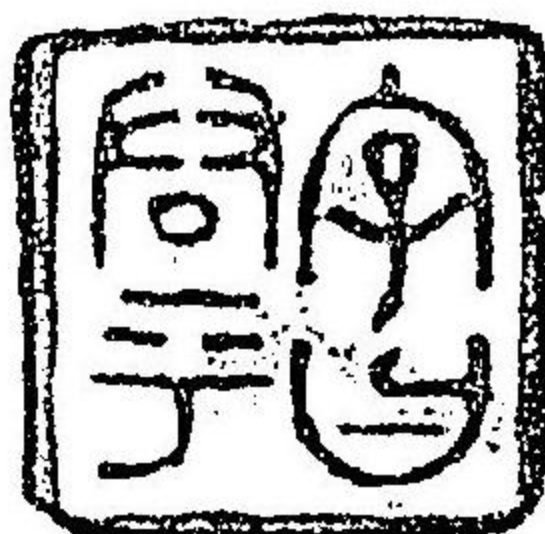
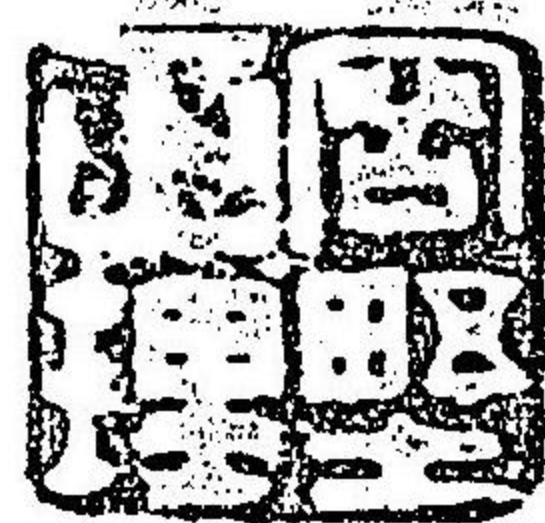
岐生

報 一
之

報 一
之

目
次
然

密
野
正
理
題



緒言

此篇不過專於我刑法所謂謀故
殺之甄別如何網羅余平素之持
論耳偶有所感附之于劄劄以公
于世冀江湖識者幸有所叱正

皇紀元二千五百四十四年三月上澣

著者識

日本刑法 謀故殺約説

第一章 謀殺

日本刑法第二百九十二條ニ曰ク豫メ
 謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲
 シ死刑ニ處ストアリ蓋シ豫メ謀ルト
 云フノ文字上ノミニ於テハ漠焉トシ
 テ其ハ如何ナル場合ナリヤ明晰ナラ
 ザルガ如シ去レド其所謂豫メ謀ルト

ハ彼ノ佛蘭西刑法中ヨリ之ヲ徵スレ
ハ曰ク「プレ」メシヨシ」ナル語ニ係
リ「プレ」トハ即チ豫メ「メシ」ト
ハ即チ熟慮ト云フノ意義ナラン歟（寫
ニ
聞ク日本刑法草案直譯ニ依レバ此「プ
レ」メシ「タシ」ナル語チ前用意ト譯セリ
ト蓋シシ（意當則チ人ヲ殺害セント豫メ
熟慮決定シ以テ斷行スルモノ是レ也
蓋シ一言ニシテ能ク意議ヲ盡スニ足

レリト雖モ姑ク事實ニ就キテハ審鞫
スル所アルヲ要セザルベカラズ而シ
テ我刑法謀殺罪ヲ組成スルヤ如何ナ
ル原素ヨリ成立ツ者ナリヤヲ推窮セ
ムニ先ツ清律輯註ニ曰ク謀殺者定計
而行其事不レ一或以金刀或以毒藥或驅
赴水火或伺於隱僻處即時打死凡處心
積慮設計定謀立意殺人トアリテ頗ル

謀殺罪ニ要ス可キ原素ヲ網羅シタル
四
ガ如シ蓋シ我刑法モ亦斯クアルナラ
ントハ概視スベカラザル所アルモ要
スルニ謀殺罪ニハ須ラク殺意ノ決定
熟慮斷行等ノ諸原素ヲ具備セザレバ
成ルベカラザルノ理ヲ知ルニハ蓋シ
庶幾カラシ乎頃日我大審院ノ謀殺罪
ニ於ル判決中往々見ルニ凡謀殺罪ニ

ハ三個ノ原素アリテ成立ツモノナリ
曰ク犯罪ノ決心其豫備及ビ着手是也
トアリ所謂此犯罪ノ決心タルヤ大ニ
實際ニ就クトキハ研窮セザルベカラ
ザルノ第一ニシテ苟モ其決心ガアリ
シ迪毫モ素意ノ如何ヲ顧ミズ個ハ即
チ謀殺罪ノ一原素ヲ得タリト速了ス
ベカラス若シモ熟慮ニ出ザリシ所謂
五

犯罪ノ決心ヲ概シテ謀殺罪ノ決心ナ
リト輕々ノ擬斷ヲ執ルトキハ蓋シ或
ハ律旨ヲ害スルノ恐レ莫シトセズ且
ツ其弊ヤ救フ可カラズトス豈ニ慎マ
ズンバアルベカラザル也佛蘭西法律
博士布亞梭那達氏曰ク(竊ニ開ク日本
刑法草案註解
ニ見ヘ)蓋シ豫メ謀ルトハ害ヲ加フル
行爲ニ先タテ決心ヲ爲シタルノ謂ナ

リトス其行爲ニ先タテ決心ヲ爲シタ
ル時間ノ長短ハ本法ノ區別セザル所
也其十分ニ行爲ニ先タテ決心ヲ爲シ
以テ其熟考シタルノ効ヲ生ズルヤ否
ヤ及ヒ該犯其惡圖ヲ固執シ本法極度
ノ嚴刑ニ處スルノ旨趣ト爲ル可キ最
大ノ罪惡ヲ表スルニ足ルヤ否ヤヲ判
定ス可キハ裁判官又ハ(陪
審ノ制ヲ
設ケレハ)陪

審ニ在リトス」ト其レ如斯此犯罪ノ事
實ヲ窮ムルヤ殺意ノ決定熟慮ノ情供
ヲ詳悉スル社ソ緊且要ノ事トハ云へ
リ實ニ此犯罪ノ決心靜定中ニ係ルモ
ノハ其穢惡ヤ慄ル可シ隨テ之ヲ處ス
ルニ本邦極度ノ嚴刑即チ命ヲ奪フヲ
以テセリ立法官ノ用意剴切ナリト云
フ可キ也然ラハ若シ其レ犯罪ノ決心

右ノ如ク靜定中ニ出デス或ハ一時ノ
憤怒鬱勃熟慮ニ違ナカリシ間ナル決
心ニテアリタルニ於テモ亦謀殺罪ノ
決心ナリトセム乎余ハ斷シテ否ラズ
ト云ン耳凡謀殺罪ノ決心トハ靜慮中
仍ホ行兇ヲ逞フセントノ匪念ヲ蓄へ
沈圖默慮其能ク方法ヲ定メ而シテ斷
行シタルノ事實ナルヲ要ス可シトス

反レ之一時ノ感情熱動シ自由ノ思慮ヲ
失シ而シ成リタル殺意ノ決定トハ蓋
シ此情狀ニ於テハ自ラ溜瀝涇渭ノ別
アル可シ然ラハ此場合ナル犯罪ノ決
心ニ於テハ如何ナル刑罰ヲ受ケ可キ
乎ト云ハゞ余ハ亦斷シテ故殺罪ヲ(刑
法)
第二百九
十四條ノ以テ治セザルベカラスト云
ハン耳其詳細ナル理由ハ請フ次章ニ

於テ論究スル所アラントスサテモ佛
蘭西刑法第三百條第三百二條ニ嬰兒
ヲ殺ス者謀故殺ノ甄別アルナク皆死
刑ニ處セラル、制ニテアリキ而シテ
千八百十六年二月八日及千八百三十
七年四月十四日同國破毀院ノ判決ニ
第三百條第三百二條(共ニ佛
刑法)ニ因テ刑
ヲ加重スル所以ノモノハ犯人ノ身分

ノ故ニ非スシテ保庇者無キ幼子ヲ深ク保護スルノ正鵠ニ出デシ者何トナレハ此罪ニ附テハ必ス豫謀有リト看做セバナリト惟ラク人トシテ我兒ノ愛ス可キト且ツ又保庇者ナキノミナラス何タル抗拒力モナカリシ恰モ猫兒ト一般ナル其嬰兒ヲ殺スハ熟慮ノ上ニアラザレバ爲ス可カラサルヤ

知ル可シ既ニ此道理ヨリ觀察スルモ殺意ノ決定スルヤ靜慮中ニ在ルトキハ謀殺罪タル免ルベカラス彼ノ憤怒ノ刺激ヨリ挑撥セラレ其間ニ乘シタル殺意ノ決定ハ是レ豈ニ謀殺罪ヲ組成スルノ決心トハ云フベケンヤ

第二章 故殺

日本刑法第二百九十四條ニ曰ク故意。

十四
ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト
爲シ無期徒刑ニ處ストアリ凡故殺罪
タルヤ故意殺害ノ二原素ヲ以テ成ル
モノタリ而シテ故意トハ即チ故ヲニ
ト云フノ意ニ他ナカリシ語ヲ變ヘテ
之ヲ云ヘバ人ヲ殺サムト欲スルノ義
是レ也彼ノ清律輯註ニ曰ク故殺起意
於臨殺之時云々又福惠全書ニ曰ク故

殺事有怨恨心無宿謀逞怒一時徑情殺
之者未嘗謀畫故次於謀殺有死之心故
重于鬥毆トアリ此解說稍其要ヲ盡セ
リ今其レ謀故殺罪ノ甄別如何ヲ知ル
ニハ宜シク殺意ノ宿謀ニ係ルト否ト
ニ他ナラサルヲ會得スルニ若カス而
シテ其判斷ヲ爲スヤ特ニ愼密ノ注意
ヲ加ヘサルベカラス彼ノ佛蘭西破毀

院ニ於テ爲シタル千八百十七年二月
二十四日及千八百五十年三月十日ノ
判決ニ曰ク豫謀○故殺ニ附キ刑ヲ加
重ス可キ場合二有リ豫謀及ヒ謀待ナ
リ豫謀ト故意トハ差異有リ豫謀ハ重
罪ヲ犯サント欲スルニ止マラスシテ
其動作方法ヲ議定シ企圖ヲ熟考シ之
カ豫備ヲ爲ス事ナリ故ニ豫謀有リシ

時ハ罪ノ階級ヲ高度トス(第二百九十七條)此
區別(豫謀故意ノ區別ヲ指ス)ハ罪科ノ有無ヲ定メ
ンガ爲メニ設クル者ニ非スシテ故殺
ト謀殺トヲ分別センカ爲メニ設クル
者ナリ故ニ豫謀又ハ故意有リシヤ否
ヤハ必ス之ヲ陪審會ニ下問セサルヲ
得ス」ト余既ニ前章ニ於テ論究スル如
ク豫メ人ヲ殺サムトノ決心アリテ成

リシト云フモ犯時ノ素意ハ果シテ靜
思熟慮ニ出デシヤ將タ熱情激發ニ出
デシヤヲ判定セザレハ此レ輒チ謀殺
罪ノ一原素ヲ得タリト概想ス可カラ
ザルモノニシテ例セバ茲ニ或ル事ニ
觸レ甚タシキ憤懣ヲ惹起シ激發ノ熱
情靜止スルノ違ナク至竟其勢力ニ厭
迫セラレ固有ノ良心之ヲ左右スル能

ハス偶マ殺害ノ行ヘアルモノニ係ル
トキハ縱シ幾干ノ決心猶豫アルニモ
セヨ是レ未ダ謀殺罪ノ決心トハ速了
スヘカラス凡ソ人ハ常ニ有スル處ノ
思想中彼レハ善事タリ此レハ惡事タ
リ宜ク爲ス可キモノト必スヤ爲ス可
カラザルモノト取捨撰擇ヲ要スルノ
自由ナル良心アルモノタルガ故ニ彼

ノ沈圖默慮案愈々定ツテ行兇ヲ逞シ
タルガ如キ所謂犯罪ノ決心ナルトキ
ハ云ハゞ其人ガ自由ノ良心ヨリ命ス
ル所ノ惡事タルヲ以テ其情ヤ極メテ
惡ム可キハ論ヲ俟ズトス設シ否ラス
シテ彼ノ非常ナル挑撥ヲ與ヘラレ而
シテ自由ノ良心相蔽ハレ以テ轉々之
ヲ支配スルヲ得ザリシ事最モ切ナル

ヨリ偶然ニ出タル行兇ノ如キ所謂犯
罪ノ決心ナルニ於テハ其情ヤ或ハ怒
セザルヘカラス西哲云ヘルアリ怒ニ
由テ挑撥(Provokab)セラレタル罪人ハ
更ニ寛ナル罰ニ處ス可シト此言モ亦
味ヒアル哉今更要之一ハ即チ虚氣中
ノ時ナリシ犯罪ノ決心ト一ハ即チ熱
情中ノ時ナリシ犯罪ノ決心トハ其情

狀ノ軒輊豈ニ日ヲ同フシテ論スヘケ
 シヤ故ニ一ハ謀殺罪ノ決心ト爲シ一
 ハ故殺罪ノ決心ト爲シテ可ナリト信
 ス於茲乎法律上故殺罪(刑法第二百五十九
 九十六條第二十六十一條等ノ場
 合ニ於ル故殺罪ハ格別ナリトス)ヲ治
 スルヤ謀殺罪ヨリ次キトシ以テ命ヲ
 奪ハザル所以ナラン蓋シ其ハ情理ニ
 法理ニ共ニ愜當シ毫モ批難ヲ容ル、

處ナカル可キ也

明治十七年四月十五日版權免許
同年 同月廿五日出版

定價

著者

千葉縣平民

三浦翁輔

靜岡吳服町四丁目
八番地寄留

著者

茨城縣士族

高須欽太郎

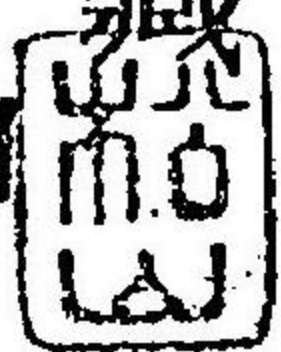
同馬場町百卅八番地
寄留

靜岡縣平民

出版人

松山德藏

同吳服町四丁目
八番地



二頁中ノ註「メシタン」ハ「メシタシユ
ン」ノ誤

十八頁中厭ハ壓ノ誤

十九頁中撰擇ハ採擇ノ誤

二十一頁中今更ノ下ニチ脱ス

發賣書肆

東京

山中市兵衛

丸家善七

吉川半七

大坂

松村九兵衛

京都

田中治兵衛

名古屋

片野東四郎

V-58

靜岡

米	佐	吉	三	勝	青	廣
山	藤	見	浦	見	木	瀬
定	俊	義	定	儀	榮	市
昌	平	次	吉	介	次	藏

定價金拾五錢

